学校番号	1202

令和３年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高校数学Ａ（実教出版）						
副教材等	ステップノート数学Ａ　（実教出版）、高校数学Ａサブノート（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・習熟度別のクラス編成で学習を行うので、現在の学習到達度に合わせて学習出来ます。
・授業では主に教科書を使用します。教科書に載っている例題や問題の学習、練習をします。
・授業の中で、学習プリントや問題集を用いて、学んだ内容の復習も行います。
・授業用のノートを用意してください。先生が板書した内容を書きましょう。
授業の中で解説を受けた問題や、練習をした問題を、もう一度自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
・授業用のノート、学習プリント、問題集は定期的に提出してもらいます。計画的に取り組んで期限までに提出して下さい。分からない問題があれば先生に質問しましょう。

2　学習の到達目標

場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質について理解させ、基礎的な知識や技能を習得します。また、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにします。さらに、それらを活用する態度を身に付けることを目標とします。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質における数学的な見方や考え方を身に付けている。	場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	ノート提出 課題プリント提出 観察等	確認テスト 定期テスト ノート提出 課題プリント提出 観察等	確認テスト ノート提出 課題プリント提出 観察等	確認テスト 定期テスト ノート提出 課題プリント提出 観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	内容	単元（題材）	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
一学期	場合の数と確率	場合の数	集合	○				a:具体的な事象の考察に場合の数の考え方を活用しようとしている。 b:樹形図、順列、組合せを関連付けて考察することができる。 c:順列や組合せを用いて、文字や数字などの並べ方や組分けの総数などを求めることができる。 d:順列と組合せの違いを理解し、利用の仕方を身につけている。	確認テスト 定期テスト ノート提出 課題プリント提出 観察等
			場合の数	○	○				
			順列		○	○	○		
			組合せ		○	○	○		
		確率	事象と確率	○	○			a:試行に対する事象について関心をもち、それを確率の考察に活用しようとしている。 b:確率と順列・組合せを関連付けて考察することができる。 c:加法定理や余事象、独立な試行の考え方を用いて求めることができる。 d:確率に関する基本的な用語と求め方を理解している。	確認テスト 定期テスト ノート提出 課題プリント提出 観察等
			確率の基本性質		○	○	○		
			独立な試行と確率		○	○	○		
二学期	図形の性質	平面図形	三角形の辺の比	○	○			a:三角形の性質に関心をもち、それを図形の計量に活用しようとしている。 b:三角形の性質について考察することができる。 c:外心・内心・重心やチェバの定理・メネラウスの定理を用いて計量することができる。 d:外心・内心・重心の違いや、チェバの定理・メネラウスの定理の違いを理解している。	確認テスト 定期テスト ノート提出 課題プリント提出 観察等
			三角形の外心･内心･重心	○	○	○	○		
			チェバの定理･メネラウスの定理			○	○		
			円に内接する四角形	○	○			a:円の性質に関心をもち、それを図形の計量に活用しようとしている。 b:円の性質について考察することができる。 c:円と直線、２つの円の関係を用いて、計量することができる。 d:円と直線、２つの円の位置関係を理解している。	
			円と直線	○		○	○		
			2つの円			○	○		
三学期	整数の性質	約数と倍数	約数と倍数	○	○	○		a:整数の性質に関心をもち、それを倍数の証明や判定、素因数分解に活用しようとしている。 b:素因数分解を用いて、約数の個数や最小公倍数・最大公約数を考察することができる。 c:素因数分解から約数の個数や最小公倍数・最大公約数を求めることができる。 d:素因数分解の有用性を理解している。	確認テスト 定期テスト ノート提出 課題プリント提出 観察等
			最大公約数･最小公倍数		○	○	○		

※　表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：数学的な見方や考え方
c：数学的な技能　　d：知識・理解

※　原則として一つの単元（教材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。